

ダイカストマシン自動化設備

ホンダ印工場に納入

三明機工

【静岡】三明機工（静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・

0088）は、ホンダのタイ現地法人からアルミニウムダイカスト部品製造向け自動化設備を受注した。ホンダのインド工場に10月に納入する。受注額は1億円。タイ現地法人の2011年の売上高は1億5000万円だが、ほかの日系自動車メーカーからの引き合いも

あり、13年に同5億円を見込む。

現地で製造するのはダイカストマシンの自動化関連設備や部品搬送装置など。ホンダのインド工場にはロボットと11台のダイカストマシンを組み合わせた自動生産ラインを納入する。

三明機工のタイ現地法人「エクスタサンメイメカニカル」は、タイの離型剤メーカーのエクスタアシア（バンコク市）と6月に合弁で設立し、7月に稼働する。資本金は2000万円。当初予定ではエクスタアシアが51%を出資する予定だったが、三明機工が65%と過半数を出資した。

現地での販売はエクスタアシアが、生産は三明機工が担当する。部品加工や組み立てまでを現地協力工場で行う。検査、ラインのレイアウト、試運転を合弁会社で実施する。